令和4年度　学校評価書

評価の基準　（３:よくできた　２:できた　１:あまりできなかった　０:まったくできなか

項　目		評　価　の　観　点	自己評価（教職員による評価と平均値）（3・2・1・0） 昨年度 項目別	昨年度 中項目	今年度 項目別	今年度 中項目	現　　況	学校関係者評価（3・2・1・0） 中項目の評価	ご意見・提言等	今後の改善に向けて
主体的・対話的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践を行っている。	2.30	2.42	2.43	2.62	・昨年度の研究を生かして、さらに効果的に活用できるIpadの授業づくりを研究することができたように思う。 ・ICTを活用した研究の2年目を迎え、教師が主体的・積極的に研究に取り組めた。 ・iPadを使った授業で、効果的な指導を目指し創意工夫されていると感じる。 ・ICTを活用して、協働的な学びができている。 ・エンジョイ活動で、他学年と交流できている。 ・iPadを積極的に活用しており、児童が主体的な学びをしている姿をたくさん見る。 ・iPadの活用の研究を通して、子供たちが主体的に学習を進め、深い学びにつなげることができている。	2.92	・ICTを活用した推進実践、国語・算数の基礎学力向上に向けて、先生たちお一人お一人の前向きに学び合う風土がしっかりと構築されていて、校内外の研修において力をつけておられるということが、学力学習状況調査など、数字として表れていると思います。	・今後も主体的・対話的で深い学びを具体的に追求する中で、R4年度に引き続き「＋iPad」を校内の合言葉にして、ICTを効果的に活用した授業実践を日常化し、児童が共に学び、共に高め合う学校を目指していく。 ・分からないことを「分からない」と素直に発信し、その思いに素直に応えられる学級集団を目指し、自尊感情に支えられた支持的風土を土台に、学力向上を目指す。
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善をしている。（ICTの活用を含む）	2.52		2.64					
	3	主体的、対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会を行っている。	2.43		2.79					
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を 育てる活動を実施している。	2.57	2.25	2.61	2.24	・今年度は参観も少なかったので、あまり公開ができなかった。 ・年に一回など、学年で道徳の指導案を作成等し、連携を図る。 ・今年度は、道徳限定の授業公開はなかったので、来年度からまたできるとよい。 ・道徳科の時間のみならず、全教育活動を通しての指導に努めている。 ・授業参観がコロナ禍であまり実施できず、道徳の授業公開に限りがあった。少ない中でも道徳参観を行った方がいいのではないか。 ・教師の朝の挨拶、校門の回数をもっと増やしてよいと思う。挨拶ができない子が多いと思う。 ・教職員全体で、道徳的な指導が徹底されているように感じる。 ・参観を実施しにくい状況なので、長期休業時に道徳ノートを必ず保護者に見てもらい、コメントを書いてもらうのはどうか？ ・いじめませんげんなど、いじめを許さない雰囲気づくりに努めている。 ・参観で多くの保護者の方が参加され、連携が十分に取れていると感じた。	2.71	・学校に行かせてもらうと、いつも子どもたちから挨拶をしてくれ、とても気持ちがいいです。 ・毎回授業参観もさせていただく中で、道徳や体育についてはなかなか観る機会がなかったり、教室等の掲示で埋もれてしまい見落としたのか・・・触れる機会がなかったため、少し評価を落としています。（資料にはありましたがあえてで・・）もちろん十分にご指導いただいていることは承知の上で、委員としての判断とさせていただきました。 ・あいさつについては、地域性も出ているのでしょうか。ご近所で声を掛け合う地域づくりも大事だと思いました。 ・通学時、トンネルでお互いにリーダーの子が譲り合いをしていて気持ちが良い。	・参観や通信等を通して家庭に返し、連携を図る。 ・デジタル教科書の活用、掲示資料の蓄積を呼びかけ、授業がしやすい環境を整える。 ・道徳科の指導計画、指導内容の明確化、指導方法の改善、評価の見直し等を絶え間なく行い、見直していく。 ・自尊感情や人・もの・自然を大切にする「豊かな心」を育むため、計画と評価のサイクルを止めることなく、取組を充実させていく。
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流を行っている。	1.87		2.04					
	6	保護者等への道徳の授業公開を行っている。	2.32		2.07					
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善を行っている。	2.26	2.26	2.32	2.36	・休み時間は、みなさん外に出ましょう！ ・体つくり委員会を中心に体を動かす取り組みを実施していた。 ・体育の宿題に関しては、授業の始めなどに（アドバイス共有してください）確認や見せ合うことを入れることで、意欲的に子どもたちは取り組めていた。 ・ためになる体育の宿題にしていきたい。（内容などの検討が必要） ・運動会前のバトンパスは、休み時間に子どもたちが主体的に取り組めていた。 ・計画はあるものの、あまり実現できていない体育の公開授業をもっとライトな形でもよいから実現させてほしい。 ・子どもの運動習慣があまり定着していない。 ・縄跳びチャレンジなど、児童が積極的に外で遊んでいる。 ・コロナの影響がおさまってきたので、体力向上部で検討しながら、取り組みを充実させていきたい。	2.5		・体力向上、運動習慣の定着に向け、外遊びを推奨し、教職員も一緒に取り組む。 ・教員主体の取組はもちろん、児童会主体の取組等についても評価改善しながら継続して取り組んでいく。
	8	体力づくりを推進する運動実践をしている。	2.26		2.46					
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成を行っている。	2.26		2.29					
指導改善（組織的・計画的）	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫や改善を行っている。	2.26	2.19	2.46	2.35	・ICT機器の活用がよくできていると感じた。 ・保護者の求める学力が高いと感じた。 ・タブレットの有効な活用の仕方について、工夫して研究に取り組めた。 ・ICT通信がとても勉強になります。 ・タブレットを活用した授業改善が進んでいると思う。 ・「めあて」を提示する授業を心がけている。	2.81		・今後も自ら学ぶ力の向上のため、子どもたちの主体的な学びのサイクルを作り出すよう教材研究を軸においた指導改善に努める。 ・指導者がつけたい力の明確化を図り、児童にとって意欲の向上につながったり、見通しが持てたりする「めあて」の提示を実践するとともに、学習の振り返りも充実させる。
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上に努めている。	2.26		2.43					
	12	校務の効率化など多忙化解消の取組と教育活動の質の改善を行っている。	2.04		2.14					
育ちと学びを支える連携 ① 家庭・地域との連携	13	保護者の子育てに対する積極的な支援を行っている。	2.22	2.19	2.32	2.36	・コロナの検温チェックや欠席連絡は、メールにできると担任の負担軽減になると思います。エコスクール連続受賞の逢坂小だからこそ紙のお便りはできるだけなくし、ホームページで見てもらえればOKにしませんか？献立表、ランチタイム、学校だよりは印刷なしが理想です。 ・地域の方々と交流を深め、夢づくりプロジェクトで駅前花壇をつくったり、150周年缶バッジを作ったりできた。 ・コロナ禍で難しいかもしれないけれど、地域の方との交流がもっとあったらよいと思う。 ・150周年記念の取り組みを進める中で、地域の協力の大きさを改めて感じた。これからも子どもたちの思いを具現化できるようにしてきたい。	2.78	・コロナ禍の影響もあり、校外活動が十分にできない状況下、先生方は苦心された教育を進められていること、評価します。大津駅前花壇も作られ、児童の思いが実現されたと思いますが、今後児童たちがどのように維持管理を考えていくか？作ったときより、何年もどのように育てるか継続性が心配される。 ・今年は、150周年の取り組みや夢づくりプロジェクト等があり、ありがとうございます。 ・今後も体験学習の折に触れ、地域の方との触れ合いがあったり、コロナが収束との判断で幅を広げられるのなら、幼保小中で子どもたちが交流できる学びが出来れば良いかもとも思います。OB・OGの保護者も、参加していただけることを願っています。 ・駅前花壇、信号待ちにホッと一息心が和みます。遥坂小をどのようにアピールしていくのか、少しずつ手作りしていくのも楽しみです。しかし、車で駅前を西から東へ向かう信号待ちの車からは見えず、気づかずに通り過ぎてしまうのはもったいない。信号待ちはアピールのチャンスであり、癒し効果もアップ。花壇をカーブのところまで延長できたらよいのにと思いました。 ・PTAの方は、通学時の見守りお世話様です。協力体制ができていると感じています。	・コミュニティースクールをさらに推進する。 ・学校夢づくりプロジェクトを学校と地域との架け橋にできるよう、さらに推進する。 ・教育実践活動や学校からのお知らせ、学校ホームページなど、今後も継続して積極的な広報活動に取り組む。 ・地域・保幼小中が連携した防災教育・防災訓練のあり方を模索し、実施に向けて検討する。
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用をしている。	2.04		2.39					
	15	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくりを行っている。	2.30		2.36					
育ちと学びを支える連携 ② 保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業を行っている。	1.94	1.90	2.11	2.00	・コロナ禍で可能な限りの交流に取り組めた。 ・特別な支援を要する就学前幼児について、4歳児段階から特別支援学級の見学、懇談等を行っている。 ・中学校が定期的に6年の授業を参観するなど、小中の連携が前年より深まったと思う。	2.79	・今後も小中連携を密にしていきたいと思っています。	・児童と生徒・園児を中心にしながら、児童と教員、教員相互の交流・連携を活性化させると共に、保幼小中のつながりを意識した取組を継続して展開する。 ・保幼から小、小から中への円滑な接続ができるような取組を検討したい。
	17	校種間の授業公開や合同研修会を行っている。	2.00		1.96					
	18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究を行っている。	1.75		1.93					
組織的体制の充実 ① 生徒指導体制の充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めている。	2.52	2.64	2.61	2.60	・休み時間は、みなさん外に出ましょう！ ・学校としてどういう子どもを育てたいか、何が課題かについて職員間でよく話し合う機会を持ちたい。（子どもを語る会をその機会にあてたらどうか） ・組織的に対応できるようなシステムになっていて、子ども支援コーディネーター等が気にかけてくださりありがたい。 ・児童に対する丁寧な聴き取りに基づき、細やかな指導を行っている。 ・児相や子家室と必要に応じて密に連携している。 ・いつもありがとうございます。 ・いつもフットワーク軽く動いていただいてありがとうございます。 ・スクールカウンセラーの先生や教務・生徒指導の先生方を始めとして、学校全体で子どもたちに対する傾聴の姿勢が見られる。 ・いじめ事案が起こった時だけでなく、いじめにつながりそうな時も含めて、何か起こったら複数対応で子どもの気持ちに寄り添いながら、解決を図ることができた。いじめ対応の未然防止につながるが、担任の先生方は、子ども一人一人との関係づくりをしっかりしてくれている。 ・授業のUD化を進めると、個別の支援も減って担任の負担が減ると思うので、取り組んでみてもよいと思う。	3		・「報告・連絡・相談」システムの常態化を継続し、危機意識を持って、未然防止・早期発見・早期対応に取り組むと共に、情報共有を基盤とした組織的対応を継続して実施する。
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進している。	2.74		2.68					
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導を行っている。	2.65		2.50					
組織的体制の充実 ② 特別支援教育の充実	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用をしている。	2.83	2.72	2.82	2.77	・休み時間は、みなさん外に出ましょう！ ・児相などの他機関と連携をとることができた。 ・関係機関とすぐに連携が取れる。 ・忙しい中でも、特別支援コーディネーターが気にかけてくださったり、教育相談に入ってくださったりしていた。 ・個別の指導計画作成の際は、担任とコーディネーターの複数で対応できている。 ・特別支援の捉え方、児童理解、支援の在り方等、個人差（職員の）があるのは仕方がないが、少しでも同じような支援が続けられるように、全体研修を持った方が良いのではと思う。 ・いじめ事案に対して、たくさんの先生が関わり、対応できている。 ・多くの先生方から助言をいただくので、組織的な対応ができていると感じる。	2.58		・教育のユニバーサル（UD）化に努め、授業の改善・配慮、誰にとっても過ごしやすい学校づくりを進める。 ・関係機関・保幼小中・保護者と連携しながら、一人ひとりの育ちを見つめ、必要に応じて個別の教育支援計画を作成し大局的見地に立った支援を行う。
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立をしている。	2.70		2.75					
	24	関係機関と連携した相談体制の充実に努めている。	2.65		2.75					
学校満足度	25	児童生徒の学校満足度					・休み時間は自由であるべき。 ・「学校が楽しい」という児童が多くいる中でも、満足できていない児童も少なからずいる。 ・SOSアンケートで、楽しいと回答する児童が多い。		・毎回感じるのは、子どもたちが元気で明るいこと。楽しい学校生活に向け、これからもよろしくお願いします。	・教員が教育目標の具現化に向けて、今後も自ら切磋琢磨しながら、自信を持って教育実践活動に取り組む。
読書活動	26	朝読書等の読書活動の積極的な取組	2.26		2.40		・朝読書の継続により、読書好きな子が多い。 ・毎日朝読書の時間があるのが良い。	2.92		・豊かな感性や情緒を育み、学力向上の基盤となる読書活動の取組を今後も継続していく。 ・今後、読書の内容を教職員間で一致させて朝読書の4原則（みんなでやる・毎日やる・好きな本でよい・ただ読むだけ）に立ち返った読書活動を推進する
体験活動	27	環境教育等体験活動の積極的な取組	2.52		2.44		・レインボーロードの取り組みがすごくよかったです。 ・エコスクールとしての取り組みが各学年に応じてできた。 ・ビオトープで活動できるのは、児童にとっても良い経験であると感じた。	2.83	・今年も、大きな活動は出来ていませんが、試行錯誤されていることは感じます。困難の多いご時世ですが、期待しています。 ・エコスクール活動、植えるだけでなく（水やり、雑草等）植えたときの現状維持が大切。	・本校の伝統である環境教育をはじめとする体験活動について、評価・改善を繰り返し、更にその重要性を教職員一同で再認識するとともに充実・発展を目指していく。

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入）	2.50	2.52
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入）	2.28	2.29